基礎老化研究 44（1）; 61－62, 2020

【学会見聞録】

The 11th IAGG Asia/Oceania Regional Congress 2019

船越　智子
東京都健康長寿医療センター研究所

2019 年 10 月 23 日から 27 日にかけて第 11 回アジア / オセアニア国際老年学会議（the 11th International Association of Gerontology and Geriatrics Asia/Oceania Regional Congress 2019）が台湾の台北で開催され、私はポスター発表のために参加してきました。東京羽田からは約 3 時間で台北の松山空港に着き、空港から街中までもアクセスが良く、地下鉄でもタクシーでも 20 分ほどで会場の Taipei International conventional center に辿り着くことができます。台北のランドマークタワー、台北 101（地上 101 階建、高さ 509.2m）が隣接しているため、会場がどの辺りか街中どこからでもわかりました。

会場前

アジア / オセアニア大会は 4 年ごとに開催され、台湾での開催は今回が初めてとのこと。37 カ国からの参加者約 3,000 名の内、台湾からの参加は 2,171 名と最多で、日本からはそれに次ぐ 324 名の参加がありました。今回の大会メインテーマは”Health & Welling in the Silver World: From Bench to Policy”で、1. Clinical sciences、2. Biological sciences、3. Behavioral and social sciences、4. Policy, planning and practice、5. Gerontechnology の 5 つのカテゴリーに分けられたプログラムで構成されていました。ポスター演題の発表は 24 日から 26 日の 3 日間、講演間のコーヒーブレイクタイムに行われ、各日約 180 の演題発表がありました。私がエントリーした Biological sciences のカテゴリーには 3 日間共 10 演題前後と、やや寂しい感じではありましたが、フリーコーヒーと飲茶風スウィーツを片手に海外からの参加者の方々とディスカッションができて楽しい交流の時間でありました。Biological sciences の招待講演は”Metabolism and Aging”と”Biomaker in Degeneration and Aging”の 2 テーマが設けられ、前者ではミトコンドリアの生合成や機能と老化との関連を中心とした 4 講演、後者では加齢に伴うタンパク質の量的・質的変化と、老化に関連した表現型（身体的機能の低下や組織学的変化）との関連性を示す 3 講演が行われました。いずれも勉強になるものでしたが、National Yang-Ming University の Dr. Ting-Fen Tsai によるお話は興味深いものでした。ミトコンドリア膜タンパク質である Cisd2（The CDGSH iron-sulfur domain-containing protein 2）の発現レベルが、身体機能と寿命に影響するというこれまでの知見に基づいて、今回、新たにスクリーニングで得られた Cisd2 の発現を誘導する薬剤の効果についても報告されていました。その薬剤によって 26 ヶ月齢のマウスでの Cisd2 発現レベルが 3 ヶ月齢マウスのレベルまで回復し、

台北 101

連絡先：船越智子
東京都板橋区栄町 35-2
TEL：03-3964-3241
FAX：03-3579-4776
E-mail：funa@tmig.or.jp

ミトコンドリア機能が活性化するとともに、身体機能やインスリン感受性が高まったというものでした。Cisd2の寿命延長効果の具体的な分子メカニズムや、ヒトへの応用へ向けた展開など、今後の報告が楽しみです。

老年学領域の社会学、看護学といった基礎研究の分野とは違った視点からの講演を聴講しました。長時間の疫学調査から得られる知見の重要性や、高齢化が進む世界的現状を現場の方々の講演で知ることができ、大変勉強になりました。

オープニングセレモニーでの合唱

ポスター会場